



第3次健康ひらた21計画

～誰もが健やかにいきいきと暮らせるむらづくりを目指して～

歯と口の健康【平田村歯科保健計画】

第2次健康ひらた21計画を評価すると、次のような課題がありました。この結果を踏まえて、現在の第3次計画の目標や取組を見ていきましょう。

課題

- ・歯の残存本数は、改善しているが県と比較すると低い
- ・むし歯のない幼児(1歳6か月児、3歳児)の割合は改善傾向だが県国平均より低い
- ・小中学生の歯肉炎の割合が高い

歯の目標残存本数の割合 (%)

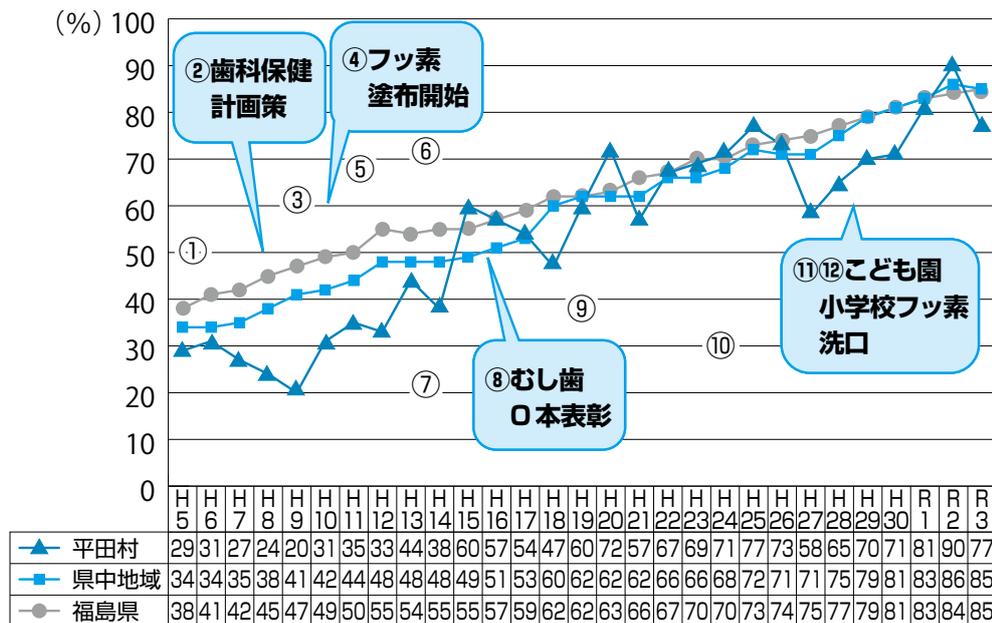
年代	目標本数	村(H25)	村(R4)	参考県(R2)
60歳代	24本	14.7	28.8	60歳73.2
80歳代	20本	3.6	4.6	80歳54.7



〔歯科保健の取り組み〕

～「丈夫な歯で一生過ごせる」を目指して～

3歳児のむし歯のない者の割合 (※丸数字は歯科保健事業開始年度)



具体的な取り組み

乳幼児、学童期

歯みがき、点検磨きをしましょう
バランスよく食べよく噛みましょう

思春期

バランスよく食べよく噛みましょう
歯みがきをしてむし歯を予防しましょう

青年壮年期

バランスよく食べよく噛みましょう
定期的に歯科健診を受けましょう

高齢期

3食食べてよく噛みましょう
歯みがき、義歯のケアをしましょう
定期歯科健診を受けましょう

歯科保健事業の経過

No	事業名	開始年度	No	事業名	開始年度
1	幼児歯科健診・乳幼児指導	H8	7	健康ひらた21計画策定	H15
2	村歯科保健計画策定	H8	8	むし歯0本表彰(学校)	H16
3	保育所幼稚園歯みがき教室	H9	9	幼児健診フッ素塗布	H19
4	歯みがき教室でフッ素塗布	H10	10	親子歯科健診	H24
5	小中学校・高校歯科教室	H11	11	こども園フッ素洗口	H28
6	3歳児むし歯0本表彰	H12	12	小学校フッ素洗口	H29

目標

むし歯のない者の割合	3歳児	88.5%→95%(R17)
歯の残存本数の割合	60歳代24本	28.8%→30%
	80歳代20本	4.6%→10%

健康福祉課 ☎55-3119

年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動を実施します

毎年この時期には、夕暮れ時から夜間にかけて交通事故が多発し、特に高齢歩行者が被害者となる重大事故の増加が懸念されます。

また、飲酒運転等の悪質交通違反による交通死亡事故が多発していることから、県民一人一人が交通法令の遵法意識を高め、正しい交通マナーの実践を習慣付けることにより、県民総ぐるみで交通事故の防止を図りましょう。

●期 間

令和6年12月10日(火)から令和7年1月7日(火)まで

●運動のスローガン

今日もまた あなたの無事故 待つ家族

●年間スローガン

わたります 止まるやさしさ ありがとう

●運動の重点

- (1) 夕暮れ時や夜間の交通事故防止
- (2) 飲酒運転の根絶
- (3) 高齢運転者対策の推進
- (4) 自転車利用時のヘルメット着用と交通ルールの遵守
- (5) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底



住民課 ☎55-3112

ひらた中央病院

今回は「痛風」について説明します。



ひらた中央病院
小原 大治 医師

関節内などに沈着した尿酸塩結晶を異物と認識した白血球が排除しようとして炎症反応が起こり、腫れや激しい痛みを生じたものが痛風発作で足の親指の付け根に起こりやすいです。高尿酸血症が原因ですが、尿酸値が高くない痛風もあります。

尿酸は健康な状態であれば、尿酸ができて、尿と便に含まれて体外に排泄されますので、血中の尿酸値は高くなりません。しかし、遺伝的要素や生活習慣が原因で、尿酸の産生が増え過ぎたり、腎臓からの排出が少なかったりして血液中の尿酸の濃度(血清尿酸値)が高くなると、溶け切らず関節などに尿酸塩結晶ができやすくなります。血清尿酸値が尿酸の溶解限界の基準値を超えると高尿酸血症とされ、痛風予備軍となります。血清尿酸値が高いほど、または高尿酸の状態が長く続くほど、痛風発作のリスクは高まりますが、痛風発作が起こっていても検査をすると血清尿酸値が基準値を下回る場合があります。痛風発作時には腎臓からの尿酸排出を促す物質が出るため、一時的に血清尿酸値が低下することが知られています。痛風発作の治療を受けて症状が治まると、再び尿酸値が高値に戻るケースが多く、明確な理由は不明ですが、尿酸値の急激な低下が発作の引き金になることがあります。高尿酸血症を指摘された経験がない人でも関節内に尿酸塩結晶が沈着していることもあります。痛風発作が起きたら、普段の血清尿酸値が正常でも尿酸値を下げる治療が必要です。足の親指の関節などに原因不明の激痛が起こったら、医療機関への受診を勧めます。尿酸値は、まず高くしないこと、高くなったら減らすこと、そして維持することが大切になります。

お問い合わせ:ひらた中央病院 ☎55-3333